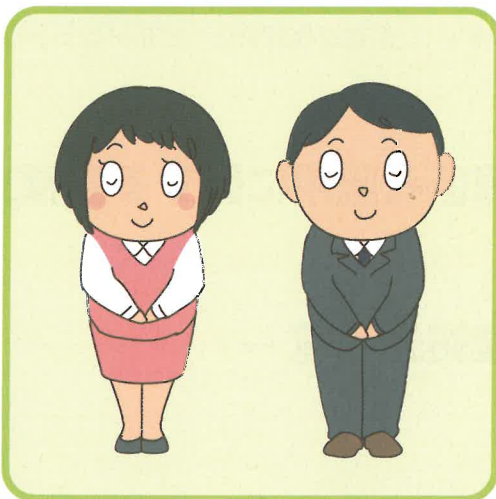
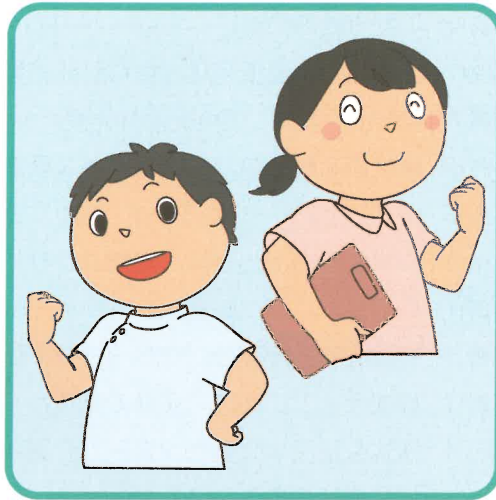




都内・身近な企業の 障害者雇用取組事例集

オーダーメイド型障害者雇用サポート事業実践事例より

平成26年3月





取組企業の概要

【企業名】株式会社環境システムサービス

【所在地】八王子市

【企業規模】124名

【事業内容】一般・産業・特別管理産業廃棄物収集運搬、公共下水道管路内清掃・TVカメラ調査、再資源・リサイクルに関する業務他

「環境保全事業で地域社会に貢献」をモットーに

私たちは次のような行動を心掛けています。

1. 日々、新たな気持ちで行動しよう
2. 住民や顧客の立場に立ち、誠意を持って行動しよう
3. 仕事に計画性をもって行動しよう
4. 詩文の役割を理解して行動しよう
5. 安全第一を常に意識して行動しよう
6. どんな仕事でも我がこととして受け止めよう
7. 当たり前のことを確実にやろう

取組の経緯

社会的責任もあり、障害者雇用を進める必要性を認識していたが、雇用実績がなく、具体的な取組み方法等の助言を受けながら進めたいと本格的な取り組みを開始した。

取組内容

●ステップ1 受入れ可能な障害者像と職域に関する相談

障害者雇用の仕事としては事務職を考えていること、雇用可能な障害者としては主に身体障害者がイメージしやすく、内部障害者や車椅子利用の方の在宅就労等が考えられるが、障害区分に関わらず柔軟に対応したい旨を東京都の矢島支援員に相談した。

●ステップ2 地域の支援機関との出会いと具体的な取り組みに関する相談

矢島支援員より地域の障害者就労支援機関として「障害者就業・生活支援センタータラントの澁谷氏」（以下「澁谷氏」という）の紹介があり、澁谷氏をまじえ着実に取組を進めることとした。

〈確認事項〉

障害者雇用の職域としては、マニフェスト（管理）伝票入力=既存ソフトへの入力作業

企業の思い ①一人目の雇用であり大事にしたい、失敗したくない

②本社は60人規模であり、仕事の切り出しは困難、既存の仕事で進めたい

③スキルアップしてなれていってほしい

④長く勤めてほしい

⑤雇用が順調に進んだら2人目の雇用を進めたい

●ステップ3 用意した仕事で雇用が進められるかの確認・マニュアル化（支援者が仕事を体験）

矢島支援員、澁谷氏より、障害者雇用が可能な仕事か体験したいとの申し出があり、マニフェスト入力を体験してもらった。

既存の作業もある程度マニュアル化を進めることにより雇用しやすい環境を整えられると説明をうけ実践した。

●ステップ4 受入部署のスタッフへの障害者雇用の説明

受入を想定している部署のスタッフへ障害者雇用の受入れについて説明を行ったところ、個々に障害者のイメージに差があると感じられた。

不安感を払拭し理解を深めるため矢島支援員、澁谷氏より「職場体験実習」の提案があった。

実習中も矢島支援員、澁谷氏のフォローが期待できることから職場体験実習を実施することとした。

●ステップ5 職場体験実習の実施準備

実習対象者についても「礼儀正しい、言葉遣い、社会性のある人」を推薦してほしいと澁谷氏、矢島支援員に伝え、応募者を募った。

澁谷氏より、市内在住の男性（精神障害者）の応募がある旨連絡があり、社内で検討を進め、短時間の実習を実施することとした。

澁谷氏から、推薦された障害者については、以下の説明があったこと、実習前に会社に来てもらったことから実習へ進む安心感があった。

ご本人の特性として

・真面目でコツコツ仕事を進めるタイプ

・自分の障害（病気）に関する理解が出来ている。

・穏やかな人柄

●ステップ6 職場体験実習の実施と振り返り

実習中については、作業のスピードよりも、作業を再確認しながらゆっくり正確に行うことを主眼に本人に説明しながら実習を行い、作業工程に合わせた配慮をしながら進めた。

礼儀正しく、言葉遣いも問題なく、物静かで穏やかと感じられた。

実習の最終日に支援者と職場体験実習の振り返りを行い、正確性や作業スピードについても、慣れてくれば改善できると澁谷氏から説明があった。

●ステップ7 トライアル雇用の開始と採用・定着支援へ

矢島支援員よりトライアル雇用制度の説明があり、3ヶ月間のトライアル雇用へ進んだ。労働時間は、週4日、一日5時間の週20時間勤務からスタートすることとした。真面目な仕事ぶりで、不明な点は自分で判断せず確認をしながら進めとても安心感がある。データ入力の目標枚数もクリアし、新しい仕事への幅も広がり社内の戦力になっている。社内選考の結果、本採用することと決定した。また、採用後も定期的に矢島支援員と湊谷氏の訪問による定着支援を受けることとした。



「東日本大震災 災害復旧支援隊」 下水道メンテナンス協同組合



日中の事務室も穏やかな職場環境です。



近くには小川が流れ、自然環境の大切さが感じられます。



【企業人事担当者より】

地域社会に貢献するという社是のもと、障害者を雇用することによって少しでも社会貢献につながれば、という経営者の判断により取り組みが始まりました。今回支援していただいた東京都の矢島さんやタラントの澁谷さんには、当社の現状を十分にご理解いただき、無理のない形で当社の合う人材をご紹介いただきました。

トライアル雇用後、本採用いたしました。今では当初の倍以上の業務量を正確にこなせるようになり、当社にとっては重要な戦力になるまでに成長しました。今後、障害者雇用を増やす際には、このような支援が利用できればと思っております。



総務部 佐藤課長



従業員 田中さん

【従業員より】

入社してから、“環境を守っていること”が、自分のやりがいとなっています。会社の前を流れる川には、カモやアヒルが元気に暮らしています。会社の方から、カワセミもいると聞きました。鳥たちが住むためには、きれいな川が必要です。きれいな環境を作る会社で働いていることを、誇りにも思っています。自分は、マニフェスト（産業廃棄物管理票）をパソコン入力する仕事ですが、“自分の仕事が環境保護の一端を担っている”と言った、責任も生まれました。職場の皆様も温かく、仕事で分からない事を相談すると、丁寧に教えてくれます。今後は、マニフェスト入力の他にも、色々な仕事を任せていただけるような社員を目標としています。

【就労支援機関より】



障害者就業・生活支援センター
タラント 澁谷さん

「環境システムサービス」様では、任せたい業務や習熟度に伴う人材育成の進め方、更には、今回の採用が成功した折には、グループ企業へも障害者雇用を拡大していく、明確な展望をもっておられました。

一方の田中さんは、パソコンにふれた経験が皆無に等しく、事務職に就くことも初めてでした。しかし、地域で軽作業の訓練を積んでいた際、作業のやり方や指摘された点、ミスした点を必ずノートに書きとめて次に活かす姿勢がありました。特に、始業前や休憩時間、帰宅後にノート

を見直す、ひたむきさがありました。

田中さんであれば、パソコン操作や入力業務を自分のものとし、更なる習熟が可能と考えました。その結果、やはり、地道に一步一步と歩を進め、本採用へ到達する姿を見せてくれました。まさに、会社の真摯な取り組みと、田中さんの真面目さが合致した雇用となりました。

【東京都 矢島支援員より】

トップダウンの意思決定と企業担当者の理解と進め方が雇用に繋がりました。

企業担当者自ら障害者への接し方を考え行動し社内環境を整えていただきました。職場実習では通勤経路（バス）を事前に調べ、より良い通勤方法を探していただいたり、PC入力業務ではいろいろな配慮をいただき障害者に寄り添う思いやりを深く感じました。また、能力に応じた作業量を考え育成する進め方で仕事の幅も広がり、今ではなくてはならない戦力になっています。ご本人も定年まで長く勤めたいと頑張っています。